

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2972000364
法人名	有限会社とらい・あんぐる
事業所名	グループホーム葵
所在地	奈良県磯城郡田原本町千代839-16 (電話)0744-33-3222

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成 19 年 12 月 13 日

【情報提供票より】(平成19年 12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.2 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1000 円	

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 70 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小阪クリニック・国保中央病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、交通量の多い幹線道路から少し入った新しい住宅地の一角にあり、まわりは意外と静かである。木造一階建てで段差もなくとても生活しやすい構造になっている。居室のベッドも、1m幅の木製の広いものが使用されており、ホームのこだわりが感じられる。「楽しく笑顔で暮らす」「レクで五感を刺激する」の理念のもと、楽しいレクが毎日行われている。外出の機会も多く、活動的で、何よりも利用者によくの笑顔が見られるのが特徴である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘された契約書の文字が見つらいこと、重要項目説明書に内外の苦情受付窓口が記載されていない、文書中に「痴呆」の文字が残っているなど、事務的な問題がクリアされていない。運営者と相談の上、早急に対処をお願いしたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員で話し合い、気づいたところは具体的な改善策を出し合っ、実行している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議がまだ1回しか開催されておらず、役場の職員も参加していない。自治会や役場に積極的に働きかけ、運営推進会議の内容を活かした取組みがなされるよう期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会者、家族から直接意見を聞く機会が多く、その都度対応している。県の運営適正化委員会のパンフレットと共に、意見箱も設置している。また、ホーム便りに、ホーム内の苦情受付窓口を記載しているが、重要事項説明書に内外の苦情受付窓口が記載されていないのが残念である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の人や、地域のボランティアとの交流はあるが、新たに開発された住宅地にあり、まだ自治会に加入していない。自治会に加入し、地域の学校との交流やお祭などに参加されることが望まれる。また、災害時に地域との連携ができるよう取組みが必要である。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針の中に、「地域との結びつきを重視し、地域活動に積極的に参加する」という理念が盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「楽しく笑顔で暮らす」「レクで五感を刺激する」などの理念を職員で確認し合い、日々の活動の中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の人や、地域のボランティアとの交流はあるが、新たに開発された住宅地にあり、まだ自治会に加入していない。	○	できれば自治会に加入し、地域の学校との交流やお祭、行事などに参加が望まれる。また、地域社協や民生委員との交流も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘されたところの一部は改善がみられるが、「契約書の文字が読みづらい」「重要事項説明書に内外の苦情受付窓口が記載されていない」「研修計画をつくる」などの課題が残されている。また、契約書や重要事項説明書、運営規定に「痴呆」という言葉が残っている。	○	事務的な改善項目は、すぐに対応できるものもあり、運営者と相談の上、対処をお願いしたい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ一回しか開かれていない。参加者は、家族代表、地域住民とホーム関係者で町の担当者が参加していない。	○	町の担当者と共に、自治会長や民生委員、地域包括支援センターとも連携して会議を開催してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の関係で、役場には行き来する機会を持っているが、サービスの質の向上などの話し合いはできていない。	○	運営推進会議を含め、役場との積極的な連携が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会者が多いが、毎月「花ことば」が発行され、活動の様子が報告されている。同時に金銭的な報告もなされている。また、個々に写真も同封されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日のように面会者が多いのが特徴で、家族から直接意見を聞く機会が多い。県の運営適正化委員会のパンフレットと共に、意見箱を設置している。また、ホーム便りに、ホーム内の苦情受付窓口が記載されている。	○	多くの取組みがなされているが、重要項目説明書にも内外の苦情受付窓口の記載が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループ内での移動はなく、職員の離職率は少ない。あるときは1ヶ月をかけて利用者のダメージがないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の管理者研修やリーダー研修、福祉パークで行われている研修会などに参加している。また、同じグループ内での合同研修もある。研修に参加したときは、資料を事務所に置き、誰でも見られるようにしている。できれば、研修計画をたて、計測的な取組みが望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じグループ内のホームとは、研修の機会がある。また、近くにできたグループホームに見学に行き、交流を持つことができた。できれば、恒常的な交流の機会をもってほしい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が見学にこられる場合が多いので、本人に体験入所をしてもらい、集団生活を体験してもらう機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	習字の得意な人に、歌詞を紙に大きく書いてもらっている。カラオケや俳句、クロスワードなど、個々の得意な分野を他の利用者や職員に教えたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	比較的元気な人が多いので、本人に直接意向を聞くことができる。また、面会者も多いので、面会時に家族の希望も聞き、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	元気な人が多いので直接本人に聞いたり、面会時に家族の意向を聞いたり、さらに職員の意見などを考慮して、介護計画が立てられている。	○	できれば利用者の家を訪問し、生活歴を調査して、ADLだけでなく生活歴や生きがいを活かした介護計画が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、本人に変化がないときは、家族や本人の意見を聞き、6ヶ月に一度見直しをしている。また、計画書を説明し、サインの頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって、医療機関への通院支援を行っている。家族の宿泊や食事など、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、かかりつけ医から往診をしてもらっている。また、緊急時にも対応してもらえる。家族が希望する医療機関も利用することができる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族から今のところホームでのターミナルケアについて希望がないとのことであるが、契約書や重要事項説明書に記載されていない。	○	ターミナルケアは、今後避けて通れない問題であるので、かかりつけ医などと相談の上ホームでよく検討し、方針を決めて文書化されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	昼間オムツを付けている人は、なるべく薄い目立たないものにしてている。また、居室に入るときは、本人の同意を得て入っている。また、個人情報保護に関して、研修を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースやその日の体調を大切に、起床や就寝の時間はバラバラである。一日の大まかなスケジュールはあるが、利用者の希望も聞きながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を聞き、食材の買い物も職員と一緒に行くことがある。利用者と会話をしながら、同じ食事を職員も食べるようにしている。片付けは、ほとんどの人が自分でカウンターまで持ってきている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴になっているが、希望があればそのつど対応している。夜間入浴の希望はないとのことであるが、できればその体制づくりも検討してほしい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花見や盆踊り、みかん狩りなど、四季の楽しみごとをつくっている。また、2ヶ月に1回外食の機会をもっている。できれば、本人の生活歴や趣味などを生かした支援も望まれる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	強制はしていないが、外出もレクリエーションの一つに位置づけ、散歩や買い物などできるだけ毎日外出できる機会をもっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は特に玄関に鍵はかけられていない。また、居間のすぐ横に玄関があるので、安心して見守りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器を設置し、消防訓練を行っている。心肺蘇生法の研修にも参加している。災害時の避難所の確保や地域との連携に課題がある。	○	地域の避難所の確認や、災害時の地域との協力関係の構築が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスと共に、野菜を多く取れるよう配慮され、味もとても良い。食事や水分の摂取量も把握し、記録されている。レクを多く取り入れ身体を動かしているため、食事や水分の摂取量も多い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、旬の花がいけられ、使いやすいテーブルや椅子が置かれている。廊下やトイレ、お風呂場にも適所に手すりがつけられている。ただ、トイレの臭いが少し気になった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、低床で1m幅の広いベッドがある。木製で落ち着いた雰囲気があり、心地よく寝ることができそうである。家具の持ち込みも特に制限はない。		